

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人・ホームの理念を掲示し、ホーム会議・朝礼で唱和し理念の共有化に努めている	法人の理念の他にグループホーム独自の理念があり、相談室等に掲げられている。ホームの理念、「介護は妥協せず工夫する考を持ちましょう」、「共に学び伸ばしあえる場所でありましょう」の二つを共有するため毎日の朝礼や月1回のホーム職員会議で唱和したり、話し合いの中で日々のサービスをふり返り、意識づけをしている。理念にそぐわない言動については各フロアのリーダーや管理者が個別に面談し注意したり、全員に関わる事項は会議などで検討し、改善につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム内の行事に参加して頂いたり、地区の育成会の催しでの子供たちとの交流や文化祭への作品出品など地域とのつながりを大切にしている	ホームとして地元区に区費の支払いをしており、広報で地域の行事や動向を把握している。子供みこしが訪れたり、市内のボランティアサークルの方々の草取りや月2回の傾聴ボランティアの来訪など交流も進んでいる。10月に法人として実施する「ニチいまつり」についても地域の住民に声がけし大勢の方がホームを訪れている。地区の文化祭にも入居者の作った大きなちぎり絵の大作を出品したり、毎年、中学生の職場体験学習の受け入れも行なっている。	地域との交流も徐々にすすんでいるが、ホーム内へ来ていただくだけでなく、地域活動の情報を集め、日常的に入居者が地域に出て地域の人々とふれ合えるような機会を増やされていくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者様に迷惑のかからない範囲内で必要に応じて事業所の特徴を活かした広報を心がけ、市や社協と合同での活動も積極的に参加している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で頂いたご意見を職員全員で共有して、サービスの向上に向け話し合い取り組んでいる	2ヶ月に1回、偶数月に、隣接地にある同じ法人が運営する小規模多機能型居宅介護の事業所とともに家族代表、区長、市高齢者福祉課職員、市地域包括支援センター職員等の参加を得て実施している。ホームから入居者の状況や活動報告を行い、市からの報告の後、メンバーから意見、質問や要望をいただき双方向の会議となっている。終了時に次の開催日を調整し、委員が出席しやすいように配慮している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じ報告・連絡・相談を実施している。ご意見に対してはすぐ検討し実施するようになっている	介護認定更新の際に市調査員がホームを訪れ、家族も同席し、ホーム職員も情報提供に協力している。市から派遣される介護相談員も来訪しており、何か問題があれば書面等で問合せがあるが、今のところそのようなことは一度もない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	最低でも年に1回以上は研修を行ない、日常的にケアにおいて問題があればその都度指導し、全職員での共有が出来るよう取り組んでいる。現在、夜間のみ玄関の施錠をしており、居室の施錠はしていない	身体拘束についての事業所内研修が年1回ある。管理者かケアマネジャーによる読み合わせを主にした研修で、毎年繰り返すことで全員に行き渡り、拘束をしないケアを実践している。入居者によっては夕方帰宅願望から不穏になる場合もあるが、言葉がけや散歩に付き添うなど、対応に工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、勉強会をホーム全体で行なうと共にご利用者様の身体や精神面の変化に常に気を配り、小さな変化も必ず報告するように職員全員に指導し、都度カンファレンスすることで風通しを良くしている		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、他のユニットに成年後見人制度を利用されているお客様がいる為、学ぶ機会が必要と考え定期的に勉強会の機会を作っている。(本年度は未実施)	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約取り交わし時に契約書・重要事項説明書にそって(個人情報取り扱いも含)説明、疑問・不明点を確認している。また、後日気付いた点等あった場合、お知らせいただけるようお願いしている	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会等の機会にご家族様とコミュニケーションを取り、率直なご意見を頂ける様働きかけている。頂いたご意見・苦情等は早急に共有し解決に向けて話し合うようにしている。自治体・県相談窓口を施設内重要事項説明書に掲示し、当事業所内にも窓口のあることをお知らせしている	家族等の面会は週1回ぐらいの方が多く、遠方の家族でも2~3週に1回は来訪している。職員は家族が来られた時に現況報告をし、家族からの要望や相談に応じており、法人としても家族を対象とした満足度調査を行いホームの運営に活かしている。介護保険の改定などに伴う重要な案件がある場合には家族に一堂に会していただくこともあり、諸制度についてご理解をいただく場としている。家族のもとには毎月「ほほえみってい〜な新聞」と写真で綴った「ほほえみギャラリー」が届けられ、職員とのコミュニケーションに役立っている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議で発言する場を設けたり、個々に面談を行なっている。日頃から職場内で意見を言いやすい環境づくりに取り組んでいる	月1回15日前後に行なわれるホーム会議や月1回のユニット会議、毎日の全体朝礼やフロア朝礼で職員に報告・連絡が明確にされている。人事考課制度も導入されており、上級職には上長による面談が行なわれる。ケア委員会他各種委員会もあり、職員のアイデアや気づきを取り上げられるようになってきている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別職員の意向を重視しながら やりがいや向上心を持てる職場環境づくりに取り組めるよう働きかけがある。人事考課により個別の業績評価の機会を設けている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じ、法人内研修の受講を実施している	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質を向上させる為、勉強会やネットワーク作りにもっと真剣に取り組んでいきたい	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接・相談から得たご利用者様についての情報を共有し、安心して過ごしていただける環境作りを心がけている。日常においてもよくコミュニケーションをとり、訴えを聞き取るように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接。相談において不安や困った事等をよく伺い、要望・状況に基づいたプラン作りを努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居理由をしっかりと伺い、その方にとって一番よいサービス方法のひとつをお話させて頂いている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常においてよくコミュニケーションを取ると共に必要に応じてスキンシップをはかり、協力しながら生活を共に築いていく姿勢に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族様の話に真剣に耳を傾け、お互いに手を取り協力し合っご本人を支えていける関係性を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や馴染みの方との時間を出来る限りとって頂ける様心がけ、外出や外泊の時間などを指定することなく、楽しい時間を過ごしていただいている	自宅の隣近所の方や入居前にお世話になったケアマネジャーなどが訪ねてくる。知人からかかってくる電話を取り次いだり、友人への手紙についても職員が支援している。お正月やお盆、お墓参りなどに家族とともに外出したり、外泊する入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや生活の中でそれぞれの役割を持って頂ける様に支援し、協力し助け合う中でお互いに認め合えるような交流が出来る様に支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お手紙をさしあげる等して関係性を大切にしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の希望・意向に耳を傾け、自分らしく生活していただけるように支援している。思いを訴えることが困難な方に関しては、日々ご本人の立場に立って考え行動するように心がけている	約三分の一の入居者は自分の思いを伝えることができる。表出できない入居者にも声かけをすることで表情や動きでの反応がある。夜間や入浴時に普通の人と同じく利用料の心配や何時になるか分からない死について職員と話をしている入居者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前のアセスメントにより得たご利用者様それぞれの情報を全職員で共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的に検討し、現有機能を活かした支援に努めている。心身状態について都度細かに申し送り、職員全員が把握し、安心して生活して頂ける様支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様がより安心して暮らして頂ける様、カンファレンスでの意見やご家族様の要望・ご意見も取り入れた介護計画書を作成、計画に基づいた支援をしている。また、必要に応じて都度カンファレンスを行ない、現状に添った計画書を作成している	職員は1~2名の入居者を担当しており、計画作成担当者によって作成された介護計画のモニタリングに加わっている。介護計画は3ヶ月に1回見直しをしており、状態が変わった時には即対応している。計画については本人や家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の日々の様子を個別に記録している。特別なことがあった場合は申し送りをし、職員間で情報を共有してその日の状態に合ったケアを行なっている。また状態によっては早急にカンファレンスを行なっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	許される範囲内で柔軟な姿勢でニーズに応えている		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中に出かける機会を作ったり、ボランティア活動も含めホーム内の行事に参加して頂ける様声をかけ、理解を深めて頂ける様努めている	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様及びご家族様の希望を尊重しつつ、日常での健康状態を把握し早期手当て・治療・回復をして頂けるように情報提供をし、受診して頂いている	入居前からのかかりつけ医を継続することもできるが、ホームの提携医に変更する入居者が多い。月2回提携医による往診がある他、緊急時にも往診が可能である。家族が都合のつかない場合は職員が代わりに付き添うこともあり担当者が経過を説明している。提携医院の看護師による訪問もある。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療時の記録をしている。往診時や看護師の訪問の際は「訪問診療記録」に基づいて状態を報告し、受診後はその様子等を記録し全職員に申し送っている	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院と提携医で利用者の様子について連絡を取り合っている。入院中は、管理者・ケアマネージャーが病院訪問し情報交換を行なっている	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は頻繁にカンファレンスを行ない、状態に応じたケアに努めるようにしている。終末期のケアについては、心構え・やるべき事を職員間で周知徹底している。ご家族様とも話し合いの場を設け、ホームに求められる事、ホームに出来る事を明らかにしている	本人や家族からの要望があればホームでの看取りも可能である。過去に1人の方を見送ったことがある。その際には提携医と協力しながら、職員のカンファレンスでも医師の指示を伝え、家族とも話し合いながら最期を看取った。他の入居者も自然に受け止め、お別れの挨拶をした方もいた。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に対して「緊急対応マニュアル」をフロア内に掲示すると共にケアスタッフマニュアルに記載された対応を熟読し実践できる様に努めている	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に緊急連絡網を作成し、対応人員を明確にしている。消防署立会いのもとに避難訓練を年2回実施し、問題点を指摘していただく等、速やかに非難できるよう改善を心がけている	消防署員の参加の下、年2回の避難訓練を行っている。訓練には車椅子の入居者をはじめ全員が参加している。方が一に備え区の協力を運営推進会議などをお願いしており、区の「防災の日」の訓練資料なども頂いている。非常食なども備蓄されており、訪問時、スプリンクラーの取り付け工事中であった。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した声かけを行ない、尊敬の思いを持ってお話させていただく様に徹底統一している。個人情報の破棄にはシュレッダーを使用している	法人として入居者または利用者の方を「お客様」と総称しており、敬意を持って接遇に当たっていることが肌で感じられた。個人情報の保護や守秘義務については法人としてのマニュアルがあり、ホーム内での研修も年1回実施されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の意志を引き出せる様な声かけや、思いや希望を表せるような環境作りに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日、その時の意思を尊重し、体調と合わせてそれぞれのペースで毎日を過ごして頂ける様支援させて頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面や整髪・髭剃り等出来る事はして頂き、ご本人の希望に添った支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご希望をお聞きしてお好きな物や馴染みの料理を取り入れ、下ごしらえや器の準備等一緒にして頂いている。また、おやきやおはぎ等手作りの行事を企画して活躍の場を作り、楽しみながら食事をして頂けるように工夫している	入居者でできる方は下ごしらえや配膳、片付け、食器洗いなどを行なっている。トロミやミキサー食の方が三分の一ほどいるが、殆どの入居者が介助なしで食べることができる。五平餅やおはぎ、お好み焼きや焼きそばなど入居者手作りの昼食の日もある。ホームのミニ菜園で作ったカボチャや近所からの差し入れの野菜なども食卓に上りひとときの話題になることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご自身のペースで水分が摂れる様に、ゆっくり時間をとる、お好きな飲み物を選んで頂く、時間に拘らずこまめに声かけする等の工夫をしている。体調によりメニューや食事の形態を変更するなど状況に応じて都度対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	提携医の指導も踏まえ、個々の状態に合わせた口腔ケアを毎食後行なっている。また、必要に応じてアイスマッサージなども行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を活用し、個々の排泄パターンや習慣に合わせた声かけ、誘導・介助を行ない出来る限り自立での排泄が続けていける様に支援している	トイレでの排泄を積極的に支援している。尿意をはっきりと告げることができる方は若干名でパターンに合わせ手引きで誘導したり、介助している。全介助の方も三分の一近くいる。トイレも3ヶ所と各居室に合わせ配置されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・乳製品等摂って頂くようにしている。水分が摂りにくい方にはゼリーなどで摂取して頂いている。また、食事には繊維質の多い食材を取り入れたり、定期的な散歩や毎日の体操を行なうなど予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様の体調や様子に配慮しながら希望に添って入浴して頂いている。気乗りしない日は手足浴を勧めたり入浴剤を使用するなど気分転換をして頂けるように工夫している	職員の見守りと声かけが必要な方や全介助の方が若干名いるが、殆どの方が自分で入浴できる。体力面から家族と相談し週1回の方もいるが、午睡の後、希望に沿った時間で週2回は入浴しており、拒む方には無理強いせず、手浴や足浴で対応することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、天候や状態に応じて外気浴・レクリエーション等の参加の声かけをしているが、それぞれにお好きな事をして頂き、気分転換を図るなど安眠休息のための個別支援に努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は服薬マニュアルにしたがって管理しており、提携薬局より都度指導頂き、薬局担当が申し送り全職員が理解できるように努めている。また、症状の変化等について提携医と連携をとり、確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの特技や趣味を活かせるように日々支援させて。毎月2回程度、誕生日会や季節の行事を計画、準備から協力して行事を盛り上げて頂き気分転換できるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様のご希望がある時は積極的に出かけ、職員からの声かけでも定期的に屋外に出かける機会を作るように努めている。また、ご家族様の協力も得て出かけられる様に支援している	季節に合わせたドライブや買い物など、家族と同行したり、スタッフの付き添いで個別に外出することが多い。自力歩行の方が大半であるが車椅子の方も三分の一程いる。やや重度化しつつあるので全員での外出は難しく、入居者によってはベランダやミニ菜園・花畑で気分転換をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に一括管理させて頂いているが、ご本人様の希望や必要に応じて買い物等に出かけ、ご自身でお支払いして頂けるよう援助している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話での交流も自由にご希望通りになって頂けるように支援している。また、毎年フロアで共に年賀状を手作りし、ご本人の自筆を家族に送らせて頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快や混乱を招く事のない様極力配慮している。係りが中心となって、生活感や季節感をとり入れた装飾等を行ない、居心地良く過ごして頂ける様工夫している	キッチン、居間・食堂、畳コーナーなどの共有部分はエレベーター乗降口の前にあり、入居者にとって使いやすい。食堂からはキッチンがすぐ見え食事の準備の光景や匂いなどもすぐ感じることができる。畳コーナーにはたたまれた洗濯物が重なって置かれていた。居間・食堂及びキッチンの高い壁面には入居者の手形と写真が添えられた敬老の日の色紙が入居者毎に飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご希望を伺ったり、ご本人の様子によって声かけするなどして、一人ひとりが思い思いに過ごして頂ける様に心がけている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様・ご家族様と相談して、使い慣れた物や家具を置くなど、馴染みのある居心地の良い環境作りの工夫に努めている	居室入り口には達筆な字で入居者の名前が表札替わりに付けられている。居室にはクローゼットがあり、ゆったりとしている。そのため整理整頓が行き届いた清潔な感じの居室が多く見られる。ベッドやテレビなどが持ち込まれた居室もあり、各入居者に合わせた居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の出入り口にご利用者様の状態に合わせ、お名前を書いて貼り「分かること」を活かしている。使いかつての悪い部分は、職員の声かけや介助により安全に過ごして頂ける様に努めている		